

# 芝川小だより

## 5月 第2号

さいたま市立芝川小学校  
令和7年4月30日  
TEL 048(644)7544



### 風薫る5月を迎えて

校長 奥家 智子

新学期が始まって1か月が過ぎ、新緑の美しい季節となりました。朝、芝川や天沼の方まで登校の様子を見に行くと、子どもたちが元気なあいさつをしてくれて、途中から子どもたちと話しながら歩いて戻るのが楽しみの一つとなりました。行く先々でお会いするのが、旗振りをしてくださっている保護者や地域の皆さまです。子どもたちに「おはよう。」とあいさつするだけでなく、名前を呼んで話しかけて下さったり、寄り添って歩いてくださったり。芝川っ子のあいさつが素晴らしいのは、皆さま方のおかげだとつくづく感じます。毎日、本当にありがとうございます。

さて、新年度が始まるにあたって、始業式、入学式の時に、子どもたちに話したことの一つに、「一生懸命がんばること」がありました。今この時期が心も体も大きく育つ「成長期」だから、色々なことにチャレンジして、一生懸命頑張って自分の力を伸ばしてほしいと話しました。ですが、子どもたちはきっとそのうち、上手いいかない壁にぶつかると思います。もしかしたら、今その最中の子もいるかもしれません。そんな気持ちもあって、お話朝会で、『朝日作文コンクール 子どもを変えた親の一言 作文25選』（明治図書）の中にある「努力のつぼ」という小学1年生の女の子が書いた作文を紹介しました。

その子は何かに挑戦している時、よくお母さんから聞かせてもらう話があります。今回は、なかなかできない逆上がり挑戦している最中でした。お母さんは、「あら、今回は随分大きいねえ。」と、にこにこして何度でもその話をしてくれます。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力の壺をもらいます。その壺は色々な大きさがあって、人によって、時には大きいやら小さいやら色々あります。そして、その壺は、その人には見えないのだそうです。でも、その人が一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」が溢れるとき、壺の大きさが分かるというのです。

この作者の子は、『この話を聞くと、心の中に大きな壺が見えて、そして、私の「努力」がもう少しで溢れそうに見えて、だからまた頑張る気持ちになれます。』と作文に書いています。「私の努力がもう少しで溢れそう…」そんな気持ちがもてたら、どんなに心強いでしょう。親でも教師でも友だちでもいいと思います、このお母さんのような関わりができれば、そんな関わりが増えたら嬉しいなと思います。

気候も穏やかで外での活動が増える5月。豊かな経験ができるよう、保護者、地域の皆さまと一緒に子どもたちの活動を支えていきたいと思っています。